

薬師の森遺跡2 (鎌倉時代の水田)

大野城市教育委員会



写真1 薬師の森遺跡 5次調査

薬師の森遺跡は、大野城市乙金3丁目一带に広がる遺跡です。区画整理事業などに伴って発掘調査を行った結果、旧石器時代（12000年以上前）から現代に至るまでの様々な生活の痕跡が残されていました。特に古墳時代後期（1500～1400年前）や鎌倉～室町時代（800～450年前）には、大規模な集落が発見され、大変注目されています。

今回は、平成20年から平成21年にかけて調査を行なった5次調査のうち、市内で初めて発見された鎌倉時代の「水田」について紹介します。

写真1は、調査地を上空から撮影したものです。中央部付近に黒っぽい色の土が広がっていることがわかるでしょうか。この部分は、ちょうど谷のような地形で、水分を多く含む黒っぽい土が堆積し、ここに鎌倉時代の水田は営まれていました。写真をさらによく見てみると、蛇行した線が網目状に伸びていることに気がきます。この部分は水田を区画する「畦」にあたり、幅約30cm、高さ約10cmありました。



写真2 水田が発見された様子



写真3 発掘調査風景



写真4 足跡が発見された様子



写真5 発見された足跡と現代人(成人)の足

水田の形 この遺跡で見つかった水田は、約40区画ありました。各区画の面積は40～80㎡程度のもので多く、現在の水田と比べると、小さくていびつな形をしています。一見不便そうにも見えますが、自然の谷地形を利用して、少ない労力で効率よく水田を造るための工夫だったようです。

洪水の痕跡 発見された水田は、厚さ20～50cmもある白い砂に覆われていました。この砂は、当時の洪水の痕跡なのですが、これに覆われていたため、タイムカプセルのように当時の形を残したまま発見することができました。写真2は、水田を検出した時の様子です。洪水で溜まった白い砂の中に、盛り上がった畦の部分が黒く浮かび上がっています。さらに残った砂を取り除いていくと、黒っぽい色の当時の水田面が姿を現してきます(写真3)。

足跡の発見 発掘調査を進めていくと、いろいろな発見がありました。その1つは足跡の発見です。

写真4は、足跡が見つかった時の様子です。畦で囲まれた範囲の中に、白い楕円形がたくさん見えますが、これこそ砂に覆われた約800年前の足跡なのです。大きさは、20cm以下のものが多く、農作業を手伝っていた子供達のものなのかもしれません。また足跡が砂に覆われていたことから、土がぬかるみ農作業をしていた季節(夏ごろ)に洪水が襲ってきたこともわかりました。

鎌倉時代の風景 今回の調査の結果、水田を造る工夫や自然災害とのかかわり方など様々な事実を知ることができました。また水田が発見された近くでは、同じ時代の住居や井戸、墓地なども確認されていて、次第に当時の村の風景が解明されつつあります。今後、分析・研究が進めば、いきいきとした当時の人々の暮らしぶりが明らかとなってくることでしょう。